

これまでの特別展等

※ 掲載している情報は開催当時のものです。

年度	展覧会名	概 要	会 期
R6	佐川美術館コレクション 平山郁夫展 一悠久の歴史をたずねてー	日本画壇を代表する画家・平山郁夫は、戦争や被爆の体験をきっかけに平和への祈りを制作に込め、仏教伝来やシルクロードを生涯のテーマとして描き続けました。また、世界中の貴重な文化遺産を守るため、世界文化財赤十字構想を提唱し、中国やアフガニスタンなど各地の文化財保護活動に尽力しました。本展では、滋賀県の佐川美術館の所蔵作品から、平山がシルクロードを主題に描いた作品89点を紹介します。	5月25日～6月30日
	テオ・ヤンセン展	オランダ生まれの造形作家テオ・ヤンセンは、「現代のレオナルド・ダ・ヴィンチ」とも称されるアーティストです。本展では、風力で動く巨大なアート作品「ストランドピースト」をはじめ、映像や模型、自筆スケッチも公開します。会場では実際に動くストランドピーストも体感できます。自然との共生や芸術と科学の接点に子どもから大人まで楽しく触れることができる展覧会です。	7月20日～9月8日
	19,20世紀の芸術家とポスター ー創作において自由なる競創ー	19世紀後半、芸術家たちは新しい表現の可能性をポスターに見出し、想像力豊かで色鮮やかな作品を創り出しました。20世紀には、高い技術と芸術性を持つ印刷所がポスター制作を担い、芸術と広告を融合させていきます。本展では、マティスやピカソ、ローランサン、シャガール、ダリなど、巨匠たちのポスターに注目し、絵画作品とは趣の違う、色鮮やかで心躍る創作約160点を紹介します。	10月19日～12月8日
R5	日本の切り絵 7人のミューズ	美しい紙の切り口を生かしながら絵を描く「切り絵」。本展では、日本を代表する切り絵作家である蒼山日菜、SouMa、筑紫ゆうな、福井利佐、切り剣Masayo、松原真紀、柳沢京子の7人による100点を超える作品を通して、その表現の広がり的魅力を紹介します。	5月20日～7月2日
	ヨハネ・パウロ2世美術館展 ～華やかなる西洋絵画 伝統の系譜～	ヨハネ・パウロ2世美術館は、中世から近代に至るヨーロッパ絵画の様々な流派を網羅する絵画作品を所蔵しています。本展では、その所蔵品の中から、「母と子」「神話と伝説」「肖像」の3つのテーマごとに、クラナハ(子)、レンブラントらによる作品61点を紹介します。	7月15日～8月27日
	生誕100年 山下清展	「放浪の天才画家」と称される山下清は、18歳で放浪の旅を始め、旅先での風景などを緻密で色鮮やかな貼絵で表現しました。本展では、貼絵、油彩、水彩画、ペン画、陶磁器など約190点の作品を、資料や本人の文章などと併せて紹介し、「芸術家・山下清」の真の姿に迫ります。	10月7日～11月26日
R4	尼崎市コレクション 白髪一雄 ー行為にこそ総てをかけてー	白髪一雄は、足で描くアクション・ペインティングを展開し、国内外で高い評価を受けた画家です。本展では、出身地の尼崎市コレクションから選りすぐった、初期の具象からアクション・ペインティングの大作まで、約70点の作品や多くの資料により、その画業を紹介します。	5月28日～7月3日
	ホキ美術館名品展 ー写実 永遠の存在感ー	2010年に千葉市に開館したホキ美術館は、現代作家約60名による500点余りの作品を収蔵する、日本で初めての写実絵画専門の美術館として広く知られています。本展では、森本草介、野田弘志らによる超絶的な技法による作品約60点を選りすぐり、写実絵画の魅力を紹介します。	7月16日～9月7日
	宮崎県立美術館コレクション企画展 めぐりあう個性	作家は、自らの表現を追求する中で、他の作家の個性や作品にひかれ、刺激を受け合うことがあります。また、共通する考えや表現などにより美術団体やグループとして集い、活動することもあります。本展では、当館の所蔵する作品を、作家たちのめぐりあいやつながりという切り口で紹介します。	10月1日～10月30日
R3	ホキ美術館名品展 ー写実 迫真の存在感ー	日本で初めての写実絵画専門美術館であるホキ美術館のコレクションの中から、現代写実絵画を代表する森本草介、野田弘志ら24名の作家による名品62点を一堂に展覧します。作家それぞれの超絶的な技法により細密に描き込まれた写実絵画の魅力を堪能ください。	5月29日～7月11日 (中止)
	本城直季 (un)real utopia	まるでミニチュアの世界を捉えたような独特の表現で知られる写真家・本城直季初の大規模個展。未公開シリーズを含む約150点の作品に加え、本展のために宮崎を撮影した特別撮り下ろし作品も展示。本城直季の目を通して見る「まち」や「ひと」の姿をお楽しみください。	7月31日～9月5日
	【特別展示】皇室と宮崎 ～宮内庁三の丸尚蔵館収蔵作品から～	皇居東御苑内において、皇室ゆかりの美術工芸品を収蔵・公開する宮内庁三の丸尚蔵館の収蔵作品の中から、優美な皇室御慶事の品々をはじめ、宮崎の名所が描かれた絵巻や本県とゆかりのある巨匠の名品などを紹介。国文祭・芸文祭を契機として開催される全国初の展覧会。	10月9日～12月5日

年度	展覧会名	概 要	会 期
R2	美術館に行こう！ ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方	絵本作家でありグラフィックデザイナーであるブルーナの絵本の内容に沿って、ミッフィーと一緒に県立美術館所蔵作品との出会いを楽しめます。また、ブルーナの表紙デザインや作品などにより、彼の世界の魅力に触れ、その制作の秘密に迫ります。	7月11日～8月30日
	美の旅 西洋絵画400年 ー 珠玉の東京富士美術館コレクション展 ー	世界中の多様な美術作品のコレクションで知られる東京富士美術館の名品の中から、ティントレットやモネ、ルノワールなど、各時代を代表する巨匠たちの作品82点を展示します。ルネサンスから現代へ豊かな広がりを見せた西洋絵画の美の世界をめぐる展覧会です。	9月12日～11月3日
	美術館を編む ー 宮崎県立美術館の25年	当館の開館25周年にあたり、4,200点に及ぶ所蔵作品の中から厳選して「収集保存」「調査研究」「教育普及」といった切り口で紹介。宮崎県出身の作家・瑛九や当館で開催した自主企画展の資料なども合わせて展示し、当館のこれまでとこれからを見つめる展覧会です。	11月14日～12月20日
R1	パナソニック汐留美術館コレクション ジョルジュ・ルオー展 ー 心に響く魂の色彩 ー	質の高いルオー・コレクションで知られるパナソニック汐留美術館所蔵の油彩画、版画など約100点に、宮崎県立美術館所蔵のルオーの版画集から選りすぐった優品を加えた計約130点により、ルオーの60年以上にわたる画業の全容に迫ります。	6月15日～7月21日
	ウィリアム・モリス 英国風景とともにめぐるデザインの軌跡	19世紀の偉大な芸術家・思想家ウィリアム・モリスのテキスタイル、壁紙、家具など約100点を展示するとともに、モリスが作品の着想を得た英国の美しい風景を、写真家・織作峰子の写真・映像で紹介し、モリスのデザインと生涯をめぐる旅に誘う展覧会です。	8月3日～9月8日
	美人画の雪月花 培広庵コレクションと益田玉城	日本有数の美人画の蒐集で知られる培広庵コレクションから、上村松園や錦木清方など、美人画の黄金期を築いた画家たちの作品をはじめ、明治から昭和にかけての美人画の数々を選りすぐって展示。あわせて宮崎を代表する美人画家・益田玉城の名品も紹介します。	11月30日～1月19日
H30	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	「風の谷のナウシカ」や「もののけ姫」など、宮崎駿監督直筆のレイアウトを中心に、高畑勲・宮崎駿両監督がジブリ以前に手がけた「アルプスの少女ハイジ」や「未来少年コナン」を含む約1,300点のレイアウトを一挙公開。アニメーション映画の設計図とも言われるレイアウトを読み解きながら、スタジオジブリ作品の魅力に迫ります。	6月16日～9月17日
	シャガール展 版画でつづる愛の物語	20世紀最大の画家の一人であるマルク・シャガールは、故郷ロシアの神秘的な情景や浮遊する恋人たちといった幻想的な作品で広く知られます。本展では、シャガールの8つの版画シリーズから詩情あふれる279点もの作品を一堂に公開。「愛の画家」と呼ばれたシャガールが紡ぎ出す心温まる世界観を存分に堪能できる展覧会です。	11月17日～12月24日
H29	家康没後四百年 徳川歴代将軍名宝展 ー久能山東照宮	久能山東照宮は、初代将軍徳川家康が埋葬された神社であり、国宝・重要文化財230点を含む2000点を超える美術・工芸品を所有しています。徳川家康が亡くなり神として祀られた元和二年から四百年の節目を記念し、久能山東照宮が所有する美術・工芸品の中から徳川将軍家の歴史を体現する歴代将軍の甲冑勢揃いをはじめ、歴代将軍の遺品などを選びすぐって展示し、武家文化の精髓を紹介します。	4月8日～5月28日
	夢の美術館 ーめぐりあう名画たちー	福岡市美術館と北九州市立美術館の名品68点が本県にやってきます。両館の改修工事に伴う休館のため実現可能となった“夢の美術館”です。ダリの「ポルト・リガトの聖母」、ウォーホルの「エルヴィス」、ドガの「マネ夫人像」などを宮崎で鑑賞できる貴重な機会です。	7月22日～9月3日
	あそぶ浮世絵 にゃんとも猫だらけ	猫が描かれた浮世絵版画を集めた展覧会です。愛猫家として知られた歌川国芳など浮世絵約130点によって、江戸の人々と猫との楽しく、愉快的暮らしぶりをうかがうことができます。楽しく鑑賞できる展覧会です。	10月28日～12月3日
	川崎毅と矢野静明	本県出身の2名の作家に焦点を当てた展覧会です。川崎毅はシンプルな形の組み合わせによる立体表現、矢野静明は繊細な線と色彩による平面表現。二人の静かで心にしみる独特の世界を紹介します。	1月5日～2月4日

年度	展覧会名	概 要	会 期
H28	有元利夫展 - 永遠の女神たち -	1980年代の画壇の寵児でありながら38歳で夭折した画家、有元利夫の作品展です。詩情あふれる有元の独特の画風は、多くの人々の心に深い感銘を与えます。絵画、素描、版画、立体など120点により有元芸術の全容を展観するものです。	4月23日～5月29日
	ウッドワン美術館名品選 輝く美の巨匠たち	横山大観や上村松園、青木繁や岸田劉生など近代の日本美術を牽引した国内作家の選りすぐりの日本画・洋画約80点を紹介します。親しみのある名品の鑑賞をとおして、安らぎのひとときを提供する展覧会です。	7月23日～8月28日
	篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN	篠山自身が厳選した逸品ぞろいの写真による国内初めの大規模な美術館巡回展です。篠山が過去50年間に撮影してきた「有名人」の肖像をもとに、これまでの写真展の常識を塗り変える圧倒的なスケールの展覧会です。	10月29日～12月11日
H27	ディズニー 夢と魔法の90年展 ミッキーマウスからピクサーまで	ウォルト・ディズニー・カンパニー創立90周年を記念して、2014～2015年にかけて日本全国を巡回することとなった企画展です。ミッキーマウスから実写作品の「パイレーツ・オブ・カリビアン」、「モンスターズ・インク」などのピクサー作品まで、アートや小道具類、コスチューム、模型など約800点を一同に展観します。子ども達はもちろん多くの方々に喜んでいただける展覧会です。	7月18日～8月31日
	川端康成の眼 川端コレクションと東山魁夷	ノーベル文学賞を受賞した川端康成は、優れた美術コレクターとしても知られます。そのコレクションは、土偶などの先史美術から江戸美術、近現代絵画や工芸、彫刻など幅広いものです。本展では、川端コレクションから、後に国宝に指定された池大雅・与謝蕪村による合作と浦上玉堂の水墨画、川端と深い交流のあった東山魁夷の作品をはじめ、梅原龍三郎、古賀春江、北大路魯山人、ロダン、ルノワールなどの優品を紹介します。また、文学者・川端に関する資料や文豪たちの書簡なども見所の一つです。	10月31日～12月6日
	東京国立近代美術館 工芸館 名品展	東京国立近代美術館工芸館は、開館以来、近代工芸の巨匠たちの作品を収集し、その魅力を発信してきました。そのコレクションの中から陶磁、ガラス、漆工、竹工、染色、人形、金工などの名品を紹介。様々な分野の作品がそろい、またとない鑑賞の機会です。	1月5日～1月31日
H26	大分市美術館名品展 伝統と革新と	江戸後期の文人画家田能村竹田、日本画の福田平八郎や高山辰雄、洋画の佐藤敬、重要無形文化財保持者（人間国宝）となった竹工芸の生野祥雲斎、現代美術の吉村益信など、優れた郷土作家を核にした幅広いコレクションを誇る大分市美術館の収蔵品の中から、重要文化財8点を含む珠玉の名品85点を紹介します。	5月3日～6月1日
	ポーラ美術館コレクション展 モネ、ルノワールからピカソまで	ポーラ美術館は、印象派やエコール・ド・パリの画家たちの絵画を中心とした有数のコレクションを誇ります。本展ではその中から選りすぐりの72点を紹介します。ローヤークールべら印象主義を予告した画家たちに始まり、モネ、ルノワールなど印象派の巨匠たちを中心に、ポスト印象派のセザンヌ、ゴッホ、ゴーガン、20世紀美術へとつなぐマティス、ローランサン、ブラック、ピカソなど、よく知られている作家の作品により、近代西洋美術の流れを概観します。	7月5日～8月31日
	横山裕一×シュルレアリスム	宮崎県出身の漫画家、横山裕一は、「ネオ漫画」と呼ばれる独創的な作風で現代美術のカテゴリーにおいても世界的に注目されている作家です。本展では『トラベル』や『ニュー土木』などの代表作を紹介するとともに、横山の描く「絶えず流れる時間と世界」に描かれる「もう一つの現実」と、20世紀初頭に「いつわりのない現実」に触れようとしたシュルレアリスムの当館所蔵の作品を対峙させた展示も行います。ふだん見慣れているはずの「現実」のもう一つの側面をお楽しみください。	11月1日～12月7日

年度	展覧会名	概 要	会 期
H25	魔法の美術館 光のアート展	作品に直に触れたり中に入り込んだりして、アートを楽しむ体感できる展覧会です。「光のアート」は、観覧者の働きかけによって、光や色、さまざまな影が、魔法のように変幻自在にその姿を変化させます。「見る」「触る」「参加する」ことをとおして、子どもから大人まで楽しさを共有でき、作品と遊びながら新感覚のアートを堪能できる体感型美術展、それが「魔法の美術館光のアート展」です。	4月28日～6月2日
	藤城清治 光と影のファンタジー	日本における影絵作家の第一人者、藤城清治氏は、さまざまな分野に活躍の場を広げ、その作品は絵本や雑誌、カレンダーなどでも数多く紹介されています。童話や聖書をはじめとして実在する風景にまで及ぶ多彩なテーマを、黒のシルエットで表すモダンでお洒落な作風で高い人気を博しています。今回、本展に向けて宮崎県で取材した新作を含む、約200点を展示する予定です。光と影が織りなす幻想的な藤城清治ワールドをぜひご堪能ください。	6月29日～9月1日
	愛されつづけた ヨーロッパ絵画 バロックから近代へ	長野市在住の長坂剛氏による「長坂コレクション」より、17～19世紀のヨーロッパ絵画を紹介します。強い色彩や光と影の対比、曲がりくねった線や動きで、躍動的な表現が特徴のバロック絵画を中心に、宗教画、肖像画、風景画、風俗画など多彩なジャンルの見応えある大作による展覧会です。古きよき時代のヨーロッパの雰囲気と美意識を伝える優品の数々は、わかりやすく親しみが持て、美術作品を鑑賞する楽しさを改めて感じさせてくれるでしょう。	11月2日～12月8日
H24	～日中国交正常化40周年記念～ 地上の天宮 北京・故宮博物院展	北京・故宮博物院の収蔵作品から、后妃や宮女など故宮に生きた女性たちの知られざる生涯とそのまなざしをテーマに、絵画、工芸、服飾、宝飾などの国家一級文物（国宝に相当）を含む名品約200点を展示し、中国宮廷文化の精髓をご紹介します。中でも、特別出品として海外初公開される故宮秘蔵の南宋時代の名画「女孝教図(おんなこうきょうず)」、西太后をはじめ皇后や皇妃たちが用いた貴重な食器による清朝宮廷の食卓再現は大きな見所です。	5月19日～6月24日
	京都 細見美術館 琳派・若冲と雅の世界	京都・細見美術館は、弥生時代の土器から近代の琳派の作品まで、日本美術のほぼ全ての分野・時代を網羅する優れたコレクションを有することで知られ、国内外から高い評価を得ています。仏教美術や物語絵、近年注目を集める俵屋宗達や尾形光琳ら琳派の華麗な様式や、ユニークな画風で人気の高い伊藤若冲の掛け軸や屏風、その他、雅な意匠の蒔絵、七宝など、同館の所蔵品から選りすぐりの優品を展示します。日本美術の多彩な魅力をお楽しみください。	7月22日～8月26日
	アートエネルギー研究所	心にチャージ！新しいアートの力を感じてみませんか？アートの力って何でしょう？美しさや驚きを楽しむ。その時々自分を映し出し、忘れていた何か、未知なる何かを気づかせてくれる。…アートは見えないものを見るようにする力、聞こえないものを聞こえるようにする力を持っています。そんなアートから感じるエネルギーは人それぞれで千差万別です。本展では、4032点に及ぶ当館の収蔵作品の中から、アートエネルギーという独自の切り込みによって、コレクションの新たな魅力を紹介します。作品とあなたの間に素敵な化学反応が起こるようなしかけがいっぱいです。	11月3日～12月9日
H23	清水寺秘宝展	京都清水寺の秘仏を宮崎で初公開。清水寺は、今から1200年前延鎮上人が、観音さまの夢のお告げによって音羽山中清水に開基されました。それ以来清水寺は霊験あらたかな観音霊場として洛中洛外に聞こえ、「源氏物語」「枕草子」「平家物語」などの古典から能、歌舞伎、縁起絵巻、童歌から落語にいたるまで、様々に語り継がれてきました。本展では、ご本尊「十一面千手観世音菩薩立像（御本尊御前立）」をはじめ、重要文化財を含む仏像、曼荼羅、屏風、書といった多数の寺の秘宝を展覧し、清水寺の全貌とその魅力を紹介します。宮崎への初の出開帳です。	11月3日～12月11日
	生誕100年記念 瑛九展	郷土の作家瑛九の生誕100年を記念して開催します。瑛九の全貌を紹介する大回顧展です。瑛九は、「油彩」「フォト・デッサン」「銅版画」「石版画」など多岐にわたる分野で創作活動が続けました。また、創作活動以外に新しい美術運動や団体の結成・創立、美術教育にも関わりました。生涯強烈なオリジナリティを貫いた瑛九。本展では、瑛九の代表作とともに国内外の作家の作品や瑛九にまつわる様々な資料をまじえ、これまでとは異なる視点から瑛九芸術創造の過程と多面的な魅力に迫ります。	7月16日～8月28日
	日本のグラフィックデザイン 2008－2010展	本展では、世界的にも高い評価を受けている日本のグラフィックデザインの優れた作品を紹介します。日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)による「日本のグラフィックデザイン」展の3年分の作品から、日本のデザインの代表的な作品の数々を展覧します。グラフィックデザインの今が感じられる展覧会です。また、全国のJAGDA会員と宮崎デザイナーズクラブ会員による「元気」をテーマにした作品+「みやざき・スピリッツ」焼酎ラベルのデザイン展"を同時開催いたします。全国から届いた「元気」、宮崎から発信する「元気」をご覧ください。	4月29日～6月5日

年度	展覧会名	概 要	会 期
H22	トリック・アートの世界 だまされる楽しさ	古今東西の画家たちは、様々な「だまし絵」を手がけ、見るものをあざむき楽しませてきました。本展では、高松市美術館のコレクションを中心に、視覚と固定化されたイメージに揺さぶりをかける作品を「トリック・アート」として紹介します。「見ることの不思議」と「だまされる楽しさ」を体感し、お楽しみください。	11月3日～12月5日
	水野美術館コレクションの名品より 近代日本画 美の系譜	長野市の水野美術館所蔵の名品の中から、横山大観、菱田春草などの巨匠たち、美人画の上村松園や鏗木清方、戦後活躍した高山辰雄、平山郁夫などの作品約60点を展示し、近代日本画の流れをご覧ください。横山大観の代表作「無我」は必見です。	8月13日～9月12日
	宮崎ー四つの風 ー宮崎発のアートシーンを探るー	彫刻、写真、デザイン、絵画の世界で活躍している本県出身の4作家に焦点を当て、それぞれの活動の一端を、100点余りの作品によって紹介するものです。彫刻の保田井智之。写真の内倉真一郎。イラストレーションの上杉忠弘。絵画の松田俊哉。宮崎に生まれ、それぞれの分野で感性を研ぎ澄まし、豊かな才能を開花させる4人のアーティストたち。その意欲的な創作活動から生まれる個性的な作品は、多くの人々の心に鮮烈なアートの風を吹かせています。	5月1日～6月6日
H21	中右コレクション 四大浮世絵師展 ～写楽・歌麿・北斎・広重～	お江戸の人気浮世絵師勢ぞろい。浮世絵が、江戸文化の華としてめざましく発展していく中で、その中心として活躍し、頂点を極めた四人の絵師がいました。役者絵の写楽、美人画の歌麿、風景画の広重、そして視覚の魔術師として知られる北斎です。本展は、四大浮世絵師の代表作約170点を一堂に展示し、今なお豊かな表現力と色鮮やかな色彩で多くの人々を魅了してやまない浮世絵の魅力に迫ります。特に写楽の役者絵20点が並ぶのは大変珍しく圧巻です。	11月7日～12月13日
	子どもたちに残したい名画 石橋美術館展	あの「海の幸」がやってくる。石橋美術館（福岡県久留米市）は、ブリヂストンの創業者・石橋正二郎が収集した美術コレクションを展示する目的で1956(昭和31)年に開館しました。本展では、国内屈指の日本近代洋画コレクションを誇る石橋美術館の収蔵品から、青木繁の「海の幸」や「わだつみのいるこの宮」、藤島武二の「天平の面影」など、重要文化財を含む明治から昭和にいたる日本の名画約90点を紹介します。	7月18日～8月30日
	岩合光昭写真展 地球のたからもの	岩合光昭は、写真家であった父の助手としてガラパゴス諸島を訪ねた際、自然の驚異に圧倒され、大学卒業後フリーのカメラマンとしてスタートしました。以後、地球上のあらゆる地域をフィールドとして活動し、野生動物や自然を撮影し続けています。本展では、オーストラリア、アフリカ、中国など世界の自然や動物たちと、ニホンザルや犬、猫など日本の動物たちの写真約190点により、優しくも迫力のある「IWAGO'S WORLD」を紹介します。	5月2日～5月31日
	ーペールをぬいだー 日赤秘蔵名品展 日本赤十字社宮崎県支部120周年記念事業	日本赤十字社宮崎県支部の誕生120周年を記念して、日本赤十字社コレクションによる美術展を開催します。これまでペールに包まれていたコレクションの中から、小磯良平、東郷青児、東山魁夷、梅原龍三郎らの名品を紹介します。（協力事業）	4月11日～4月26日
H20	ハウステンボス美術館所蔵 エッシャーの迷宮世界展	だまし絵で知られるオランダの版画家、M.C.エッシャー。彼は、図形として実際にはあり得ない不可思議な構造を豊かな洞察力と想像力で精緻に描き、みる者を幻想の世界に引き入れます。本展では、世界有数のエッシャー・コレクションで知られるハウステンボス美術館が所蔵する作品により、その不思議な世界を紹介します。	1月10日～2月8日
	パリーニューヨーク20世紀絵画の 流れ フランシス・リーマン・ロブ・アート・センター所蔵品展	パリを中心とするヨーロッパで芽生えた前衛美術が、海を渡り、アメリカで「モダニズム」と言われる新しい絵画表現を生み出していった20世紀絵画の流れを、ピカソ、シャガール、ウォーホルらの作品により概観します。アート・センターのコレクションがまとまって公開されるのは世界で初めてです。	11月14日～12月14日
	みんなのドラえもん展 ～魅力のひみつ～	未来からタイムマシンに乗ってやってきたネコ型ロボット・ドラえもん。1970年の連載開始以来、多くの人々に愛され続ける、日本を代表する人気漫画作品です。本展では貴重な原画を中心に、グッズや現代アート作家による作品等で、ドラえもんの様々な展開とその世界観を紹介します。貴重な原画を一挙公開！	8月1日～8月31日
	川喜田半泥子と人間国宝たち展 ～桃山ルネッサンス 陶芸の近代化～	東の魯山人、西の半泥子と称された川喜田半泥子は、三重県津市の素封家に生まれ、百五銀行の頭取など財界人として活躍する一方、数寄風流人として、陶芸・絵画・書・茶などにも通じていました。また、近代陶芸を模索する荒川豊蔵、三輪休和、金重陶陽らと交遊し、彼らの精神的な指導者でもありました。この展覧会では、志野、萩焼、備前焼、唐津焼の人間国宝らの作品に、彼らを支援した川喜田の陶芸や書画をあわせて約170点を紹介します。	5月3日～6月1日

年度	展覧会名	概 要	会 期
H19	美のひととき展 ～県立美術館名品との新たな出会い～	県立美術館コレクションの中から名品を選びすぐり、美術館に収蔵される前の状況やできごとを再現するなど、作品の様々な「ひととき」を紹介します。今まで見逃していたことや知らなかった面に気づくなど、きっと作品との新たな出会いがあることでしょう。作品が語りかける言葉に耳を傾けながら、安らぎの「ひととき」をお過ごしください。	1月11日～2月3日
	チェコ国立モラヴィア・ギャラリー、ブルーノ チェコ国立ブラハ工芸美術館所蔵作品による アルフォンス・ミュシャ展	19世紀末、アール・ヌーヴォーを代表する画家、アルフォンス・ミュシャの人気の高いポスターやカラーリトグラフなどのグラフィック作品を中心に、油彩画、装飾美術などオリジナル作品を加えて展覧し、アール・ヌーヴォー＝ミュシャ様式と呼ばれた華やかな芸術の全貌を明らかにします。	11月2日～12月9日
	シュルレアリスム展 ー謎をめぐる不思議な旅ー	ダリやマグリット、エルンストの作品に代表される20世紀の革命的な芸術運動であったシュルレアリスム。表現されるイメージの世界は一見、奇抜で不思議に見えるかも知れません。本展では難解だと思われるシュルレアリスムの世界を、4つのキーワードを柱に謎を解くようにわかりやすく案内します。	7月21日～9月2日
	2007 両洋の眼展	『両洋の眼』展には、日本画・洋画の区別はもちろん、具象画、抽象画の区別もありません。それぞれの枠を越えて、現在もっとも活躍する画家たち70余名の制作した意欲的な新作を一堂に紹介するもので、今後の美術動向を展望する絶好の機会となるでしょう。	5月19日～6月17日
H18	空、海、山、川…郷土の風土が育んだ 宮崎の洋画100年展	明治維新後、洋画は本格的に日本に取り入れられるようになりました。宮崎県の画家達もある者は海外に、ある者は国内の美術学校に学び新しい表現に取り組みました。また様々な美術グループが生まれ、美術文化を育んできました。本展では明治から昭和までの本県の画家達の足跡をたどり、国内外の動きと呼応しながら発展した宮崎県の洋画の流れを紹介します。	1月11日～2月12日
	公開制作併催 「戸谷成雄 ～大きな森～ 展」	公開制作に併せて「戸谷成雄～大きな森～展」を開催します。作品から発せられる圧倒的なエネルギーに触れるとき、みなさんの心のどこかにも新しい炎が灯るかもしれません。	12月5日～12月24日
	マリア・テレジアとマリー・アントワネット展 華麗なるハプスブルク家 母と娘の物語	650年の歴史を誇ったハプスブルク家。その激動の時代を生きた母と娘、マリア・テレジアとマリー・アントワネット。本展は展覧会の監修に「ベルサイユのばら」の劇作家、池田理代子氏を迎え、マリア・テレジアとマリー・アントワネットの母娘の物語を主軸に、ハプスブルク家絶世期の文化と美術、そして魅力あふれる二人の女性の波乱の生涯を初公開を含む貴重な遺品等によって紹介します。	10月20日～11月26日
	虹のかなたに 鬚嘔AY-O回顧 1950-2006	「虹の画家」と呼ばれる鬚嘔は、常に独自の表現を志向し国際的なアーティストとしての評価を獲得してきました。本展では、瑛九とともに活動したデモクラート美術家協会時代から渡米後のフルクサスでの活動、そして現在にいたるまでの活動の中で生み出されてきた多彩な作品の展覧によって、彼の創作活動の全貌を紹介します。	7月28日～8月27日
	ドイツ・ヒルデスハイム博物館所蔵 古代エジプト展 ～甦る五千年の神秘～	宮崎県での本格的な古代エジプト展は初めての開催となります。美術工芸品はもちろん歴史のロマンに触れる絶好の機会です。県民の皆様からの要望も大きく、ようやく実現した待望の展覧会です。	5月13日～6月18日
H17	ベオグラード国立美術館所蔵 フランス近代絵画展 ～知られざるルノワールの物語～	中欧の古都ベオグラード。ここには幾多の歴史のうねりに耐え守られてきた美術品があります。魅力的な風景画のコロー、印象派のピサロ、かわいらしいルノワールの小品たち、生命感あふれるドガの踊り子、ユトリロの街並みなど、ベオグラード国立美術館が所蔵するフランス近代絵画の逸品123点を紹介します。	1月7日～2月12日
	宮崎ーグラフィックデザインの現在	時代の夢を描き、大衆の願いを表現するグラフィックデザイン。それは広告、本の表紙、カタログなど様々な形で生活を彩ってきました。その華ともいえるポスターを中心に、これまでの宮崎のデザインの姿、そしてこれからの郷土宮崎のデザインを解き明かします。	11月5日～12月4日
	国立美術館巡回展 名作とは何か？	教科書から飛び出した名画たち東京国立近代美術館、京都国立近代美術館の名品により明治から昭和にかけての美術の流れを紹介します。岸田劉生、萬鐵五郎、梅原龍三郎らの洋画、川合玉堂、土田麦僊、鎗木清方らの日本画など、美術史を築き、近代を彩ってきた作品をお楽しみください。	8月10日～9月11日

年度	展覧会名	概 要	会 期
	特別ナポレオン展 ～英雄の光と影～	一人の人間がどこまで歴史を変えられるか。どこまで歴史を動かせるか―。フランス革命後の激動と混乱の時代を颯爽と駆け抜けたナポレオンは、その波乱に富んだ52年の生涯で一人の人間としては不可能と思えるほどの幾多の大事業に挑みました。本展では、「人間ナポレオン」に焦点をあて、東京富士美術館の所蔵するナポレオン・コレクションにアメリカの貴重なプライベートコレクションを加え、絵画、工芸、家具、調度、宝飾、書簡、遺品など約200点を特別公開し、ナポレオンの素顔に迫ります。	4月23日～6月5日
H16	サントリーコレクション 西洋の美・日本の華	本展覧会は、東京のサントリー美術館と、大阪のサントリーミュージアム〔天保山〕の所蔵品を合わせてサントリーコレクションとして名品を選りすぐり、日本美術と西洋絵画双方の精華をサントリー美術館外で初公開するものです。西洋と日本の美意識や造形表現の比較をしてみるのもおもしろいのではないのでしょうか。	1月12日～2月13日
	コレクションの歩み展	県立美術館は、この10月に開館10年目を迎えます。この間、国内外の優れた美術作品を収集展示し、多くの県民の皆様にご鑑賞いただきました。 この「コレクションの歩み展」は開館10周年を記念し開催するものです。これまでに収集した作品の中から、選りすぐりの約500点を、全ての展示スペースを使ってご覧いただきます。	10月26日～12月 12日
	ポール・デルヴォー展 －その生涯と人物像－	この展覧会は、ベルギーのポール・デルヴォー財団設立25周年記念展として企画されたもので、油彩21点を含む80点を展覧し、肖像画を中心にデルヴォーの生涯と芸術を紹介するものです。	7月31日～9月5日
	公開制作併催 横尾忠則「Y字路展」	公開制作に併せて、横尾忠則「Y字路展」を開催します。Y字路の作品だけを集めた全国初の展覧会。この展覧会のために描いた新作「宮崎のY字路」を含む約50点の作品を紹介します。	5月29日～6月27日
H15	宮崎の陶磁器 －その源泉をたどって－	江戸後期から昭和にかけて県内で焼かれていた小峰焼、丸山焼、庵川焼、小松原焼、脇本焼、都万焼に加え、県内の作品に大きな影響を与えた鹿児島、長崎、島根のやきものを合わせて約100点紹介し、宮崎の陶磁器とその源泉をたどります。	1月10日～2月11日
	フランス象徴派展 －幻想と神秘の世界－	パリの個人コレクターが所蔵するフランス象徴主義のコレクションの中から、モロー、ヤルドン、ドニをはじめとする多くの作家の作品123点により、詩的で幻想的な世界を紹介します。	10月25日～11月30日
	ボルティモア美術館所蔵 パルピゾン派～印象派展	19世紀、パリから離れてパルピゾン村に集った画家たちは、豊かな自然を描き出し、印象派の画家たちに大きな影響を与えました。コロ、ミレー、モネ、ルノワール、ピサロなど、日本人に愛されてきたパルピゾン派から印象派までの37作家の作品98点により、近代絵画の流れを紹介します。	7月12日～8月17日
	ドキュメンタリーの時代 ～名取洋之助・木村伊兵衛・土門拳・三木淳の写真から～	日本のドキュメンタリー写真の分野で先駆けとなった4人の写真家、名取洋之助・木村伊兵衛・土門拳・三木淳の作品約180点を東京都写真美術館と(財)土門拳記念館のコレクションから紹介します。併せて、昭和14年に土門拳が宮崎で取材した作品約70点も特別に展示します。	5月24日～6月22日
H14	－日向の国300年の彩り－ 郷土の絵師と日本画家展	延岡、高鍋、都城、日南などの絵師、日本画家の作品約70点により、近世から現代までの本県の日本画の流れを紹介します。	1月11日 ～2月9日
	日比野克彦展 －ある時代の資料としての作品たち－	現代美術の第一線で活躍する日比野氏の平面、立体作品約280点により、社会と美術の接点を身近に提示し、新時代の表現活動の動向を展望します。	11月23日～12月23日
	ミロ展 －マヨルカ島の光の中で－	シュルレアリスム運動の旗手として注目を浴び、天真爛漫な作風で世界中を魅了したミロの名品67点を、油彩画を中心に展示・紹介します。	7月27日 ～9月1日
	－光・影・人－ イタリア現代彫刻展	本展覧会は、これまでに収集した彫刻作品29点と彫刻作家による素描・版画の作品約50点を一堂に展示し、伝統をふまえながら多様な彫刻作品を生み出してきたイタリア現代彫刻の精華を紹介するものです。	5月25日～6月23日

年度	展覧会名	概 要	会 期
H13	－画業70年の軌跡－ 山田新一展	宮崎県出身の代表的画家の一人、山田新一。この展覧会では、山田の代表作はもちろん、周辺作家の作品も交えながら、その画業の全容を紹介します。	1月9日～2月11日
	アントワープ王立美術館所蔵 黄金期フランドル絵画の巨匠たち	ヨーロッパ有数の美術館の一つ、アントワープ王立美術館の常設展の目玉とされる作品75点により、フランドル絵画の黄金時代の神髄を紹介します。	10月20日 ～12月2日
	原田泰治が描く 日本の童謡・唱歌100選展	日本の四季を描き続けてきた素朴画家原田泰治が、日本の童謡・唱歌のもつ郷愁や哀愁を詩情豊かに描き上げた作品100点を紹介します。	7月14日～8月12日
	孤高の日本画家 田中一村展	中央画壇との接触を断ち、自分の納得する絵を描くために奄美に移り住んだ孤高の画家、田中一村。この展覧会では、緻密な観察と鋭い色彩感覚で、亜熱帯の動植物を描いた一村の作品約120点により、その画業を紹介します。	5月19日～6月24日
H12	－情熱・愛・詩情－ 塩月桃甫展	西都市に生まれた塩月桃甫は、本県のみならず戦前の台湾における美術の振興に努めたことでも知られています。本展は、台湾時代を含む桃甫の偉業を、油彩画、日本画、素描等約150点により紹介するものです。鮮烈な色彩と力強い筆遣いによる桃甫の世界をご堪能ください。	1月10日～2月4日
	幻想のガラス エミール・ガレ展	19世紀末アール・ヌーヴォー様式の工芸を代表する作家、エミール・ガレ。本展は、ガレの神秘と幻想を現出するガラス工芸の名品約100点を紹介するものです。	10月28日 ～12月3日
	近代日本画の形成 －山種美術館名品展－	近現代の日本画を中心とする山種美術館のコレクションの中から、明治以降、近代日本画の形成に携わった35作家88点の名品を選び、日本画の黎明期から戦前までの流れを紹介するものです。	7月8日～8月13日
	－中国第9回全国美術展受賞優秀作品による－ 現代中国の美術	1999年に中国で実施された第9回全国美術展入賞作の中から選りすぐった油彩画、中国画、版画など5分野81点の秀作により、現代中国絵画の精髓を紹介します。	6月3日～6月25日
	公開制作併催 絹谷幸二展	この展覧会は、絹谷幸二氏による公開制作に併せて開催するもので、初期の油彩作品、自己の画境を確立したアフレスコ画の代表作、さらに最近の立体作品を含む約40点により、絹谷作品の魅力を紹介するものです。	4月21日～5月21日
H11	ロー・コレクション 西洋絵画500年の巨匠たち展	この展覧会は、スイスのロー財団が所蔵する1,000点以上に及ぶ作品の中から、選りすぐった名品約100点を展示するものです。このコレクションがまとまって紹介されるのは、世界でも初めてです。今回の展示では、初期ルネサンスから20世紀に至るまでの、ヨーロッパ各国の代表的な作家を網羅しています。特に、人気の高い印象派の作品に重点が置かれ、モネ、ルノワール、ドガ、ピサロ、セザンヌ等の作品が出品されます。	1月8日～2月13日
	日本のわざと美 －重要無形文化財とそれを支える人々－	日本の伝統工芸は、生活に密着して育まれていく中で、日本人の美意識を反映した芸術文化となり、広く親しまれています。中でも国が指定する重要無形文化財は、最高峰の伝統工芸を生み出す高度な技術といえます。この展覧会は、重要無形文化財に指定された陶芸、染織、漆芸などの「わざ」と、選定保存技術（伝統工芸に欠くことのできない用具の製作や材料の生産などの技術・技能）を、約160点の作品と、制作の実演や関係資料等によって紹介するものです。	9月11日 ～10月11日
	～風の記憶～ 安野光雅展	安野光雅は、風景画家、絵本作家、エッセイストとして多彩な活動を展開している作家です。この展覧会では、ヨーロッパ各地を描いた風景シリーズや様々な絵本原画など、約200点を展示紹介します。詩情と機知にあふれる安野光雅の世界を、ご堪能ください。	7月24日～8月29日
	開放された戦後美術 デモクラート1951～1957	1951年、瑛九を中心に創立された「デモクラート美術家協会」。本展覧会では、戦後美術の出発点に位置したこのグループそのものに焦点を当て、その多彩で独創的な活動の全容を明らかにします。	5月2日～5月30日

年度	展覧会名	概 要	会 期
H10	ロダン展	フランス国立ロダン美術館所蔵作品を中心に、初期から晩年までの代表的な彫刻約70点とデッサン25点により、ロダン芸術の全容を紹介します。	12月20日～1月31日
	館蔵秀作版画展－松崎コレクション－	延岡市在住の松崎武壽氏より寄贈のあった、約230点からなる松崎コレクションより、長谷川潔、浜田知明など21作家70点の作品を展示し、近現代の版画の動向を紹介します。	11月17日～12月6日
	華麗なるハプスブルク家 5人の王妃の物語展	ハプスブルク家はオーストリアを中心に、長くヨーロッパに君臨しました。そこに生きた王妃たちの肖像画、装飾品、調度品など約90点を展示します。ハプスブルク家の歴史と宮廷文化をご堪能ください。	8月8日～9月20日
	公開制作併催 霰嘔作品展	公開制作に併せて、霰嘔氏の初期から現在までの油彩画、アクリル画、版画、オブジェなど代表作54点を紹介するものです。	6月16日～6月28日
	県美展のあゆみ 1975～98	宮崎県美術展25周年を記念し、第2回から第24回までの特選作品を一堂に展示します。併せてその時々々の社会事象などをパネル、写真等で紹介します。	5月2日～5月31日
H9	夢色の叙情 竹久夢二展 －河村コレクション特別公開－	「宵待草」の作者として知られる竹久夢二は、大正期を舞台に、画家、詩人、デザイナーとして、幅広い分野で才能を開花させました。彼の描いた甘美で哀愁に満ちた作品は、当時の多くの人々の心をとらえ、一世を風靡しました。本展覧会では、生前夢二と交友のあった河村幸次郎氏のコレクションの中から、日本画、油彩画をはじめ、夢二がデザインした絵はがきなどを展示し、時代をこえて人々を魅了し続ける夢二芸術の全容を紹介します。	1月24日～2月22日
	モディリアアーニとその時代 パリ1910～20	パリでは、第一次大戦前後から第二次大戦直前にかけて、エコール・ド・パリと呼ばれる画家たちが、異邦人の心情を反映した独自性の強い個性的な芸術を展開しました。本展では、その代表的画家モディリアアーニ、ユトリロ、スーチン、ヴラマンクなどの名品約70点を紹介します。	11月8日～12月7日
	－いのちを彫る－ 棟方志功展	棟方志功は、自らの木版画を「板画(はなが)」と称して、物語や詩歌の世界、宗教や神話、妖艶な女性などを大画面の板画にダイナミックに表現したことで知られています。本展では、青森市の棟方志功記念館の所蔵品を中心に、初期から晩年までの代表的作品約90点により志功の偉大な画業を紹介します。	8月23日～9月21日
	新収蔵作品展 ミュージアムコレクション'88～'97	宮崎県では、県立美術館の開館に合わせ、昭和63年度から国内外の優れた美術品を収集してきました。本展では、それらの中から平成8年度までに収集したピカソ、シニャック、ルオー、山口薫、海老原喜之介、瑛九などの秀作約70点を紹介します。	6月28日～7月13日
	ふれあい彫刻展	彫刻がもつ微妙な表面の起伏、そして様々な異なった素材の感触。それらは作品に直接指を添える時、見ただけでは感じるることのできない彫刻の新たな発見と魅力になるはずです。この展覧会は、目の不自由な方々に鑑賞という機会を提供することはもとより、観覧者に触れることによる美術鑑賞という新たな体験を味わっていただくことを目的に開催します。ロダン、佐藤忠良など国内外の著名作家や、郷土作家の秀作及び、盲学校の児童・生徒たちの作品を紹介します。	4月26日～5月25日
H8	日本のうた ふるさとのうた わが心の風景画展	明治、大正、昭和そして平成とうたい継がれてきた「日本のうたふるさとのうた100曲」のイメージをもとに、平山郁夫など日本画壇で活躍中の50名の作家が「心の風景」として描いた秀作100点を紹介します。	1月11日～2月2日
	没後10年 梅原龍三郎展	洋画家・梅原龍三郎は、明るい色彩と豪放な筆遣いにより独自の世界を築き上げ、日本の美術界に大きな足跡を残しました。本展は、没後10年を迎えるにあたり、16歳の初期作品から絶筆にいたるまでの、精選した秀作100余点と、愛用のパレットや、イーゼル、筆などの遺品のほか、師ルノワールからの手紙や、ピカソより贈られたデッサンなどを紹介しながら、梅原芸術の全容とその人間像を浮き彫りにするものです。	10月5日～11月3日
	大英博物館 肉筆浮世絵名品展	大英博物館は、ヨーロッパ最大の日本美術コレクションで有名です。その中でも浮世絵作品は、質・量ともに、世界第一級のものとして知られています。浮世絵といえば浮世絵版画がよく知られていますが、肉筆浮世絵は絵師自らが筆をとり一点一点精魂込めて描いたもので、見るものに版画とは違った感動を与えてくれます。本展は、これら大英博物館の所蔵品により、江戸初期から明治までの300年間にわたる肉筆浮世絵の流れを、菱川師宣、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川豊春などの名品130点でたどるものです。	8月3日～9月8日

年度	展覧会名	概 要	会 期
	宮崎県立美術館開館記念展 魂の叙情詩 瑛九展	瑛九（本名杉田秀夫）は、明治44年に宮崎市に生まれ、昭和の初期、いち早く海外の芸術思潮を吸収しながら、フォト・デッサンをはじめとした画期的な作品を数多く制作しています。常に自由と独立の精神で取り組み、鬚嘔や池田満寿夫など現在活躍している作家たちにも大きな影響を与えました。本展では、初期から晩年までの油彩画、フォト・デッサン、エッチング、リトグラフ等の中から代表的な作品を展示し、本県が生んだ偉大な前衛画家瑛九の画業の全貌を紹介します。	4月27日～6月2日
	寄贈秀作美術展 PART I～III	当館が寄贈を受けた作品の中から、「郷土作家美術コレクション」をはじめとする、代表的な絵画、彫刻作品約200点をPART I～IIIの3回に分けて紹介するものです。	2月20日～3月3日 6月15日～6月30日 12月7日～12月23日
H7	宮崎県立美術館開館記念展 山種美術館展 日本画の巨匠たち	山種美術館は、昭和41年東京の日本橋に開館した日本画を専門とする美術館です。その所蔵品は、近代から現代までの日本画を中心に、約2000点からなり、日本画収集においてわが国屈指のコレクションを誇っています。本展覧会は、それらの中から川合玉堂、横山大観、奥村土牛、平山郁夫など近代から現代にかけて日本を代表する作家たちの名品約60点を紹介し、日本画の流れをたどるとともに、詩情あふれる日本の美と心に触れるものです。	1月13日～2月12日
	宮崎県立美術館開館記念展 ナント美術館展 魅惑の19世紀フランス絵画	フランスの西部ブルターニュ地方の中心都市ナントにあるナント美術館は、ナポレオンによって創設された歴史の古い美術館です。そのコレクションには、イタリア・ルネサンスから現代絵画まで数多くの名品が所蔵されています。本展は、県立美術館の開館記念特別展として開催するもので、ナント美術館のコレクションの中から、個性を主張しながら大きく変遷していった19世紀フランス絵画の流れを、ドラクロワ、コローなどの巨匠の作品約80点により紹介します。	10月17日～12月10日